

カトリック

広島教区報

No. 121

カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
服部大介神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区鞆町4-42
広島司教区内
TEL (082) 221-6017

「すべてのいのちを守るため」の連帯 ―より福音的な新しい社会を目指して

広島教区長 アレキシオ 白浜 満 司教

はじめに

二〇二〇年八月に、わたし
たちは被爆・終戦七十五年と
いう節目のときを迎えます。

このことを視野に入れて、広
島教区では、「社会へのチャ
レンジ」の一年目・二〇二〇
年度のサブテーマに「いの
ち」を選んでいました。「い
のち」という神からの賜物を
考える年度に当たり、その数
カ月前から、わたしたちは新
型コロナ危機という未曾有の



5月3日、津和野・乙女峠で行われたミサの様子
(コロナ禍のため、少人数の地元信徒のみが参列した)

事態に直面しています。その
ために、教会においても公開
ミサやその他の活動の休止の
措置を取らざるを得ませんで
した。信者の皆様のご理解と
ご協力に対して、心より御礼
申し上げます。感染の第二波
を予測しながら、今後も気を
緩めずに、感染防止のための
対策を継続していきましょ
う。新型コロナウイルスのため
にもなお、困難の中にある多
くの兄弟姉妹のために神の助
けを祈りながら、この危機を
乗り越えるだけではなく、よ
り福音的な新しい社会の実
現を目指して、被爆・終戦
七十五年という節目のときを
「新たな起点」にできればと
思います。

新型コロナウイルスの中で

二〇二〇年六月五日の朝日
新聞「天声人語」の中に、以
下の一節がありました。「…
大気汚染が深刻なインドや中
国でも、感染防止の都市封鎖

によつて大気は浄化された。
ただ米航空宇宙局 (NASA)
によれば、厳戒態勢を解くと
たちまち元の木阿弥に。すべ
てはわたしたち人間の営みだ
と痛感する。…」

新型コロナウイルスは、わたし
たち人類に立ち止まつて、こ
れからの社会生活の方向性を
真剣に問い直すよう、警鐘を
鳴らしてくれているのかもしれ
ません。わたしたちの社会
生活が「コロナ以前」に戻つ
ていくとすれば、地球環境は
悪化への一途をたどるに違い
ありません。もしその途上
で、大きな核戦争が起こつて
しまつたら、地球環境の壊滅
的な打撃が予測されます。新
型コロナに感染して亡くなら
れた方々のとうとい「いの
ち」を無駄にしないために
も、「わたしたち人間の営
み」を振り返る必要があります。
わたしたちは、被爆
七十五年を、ある意味で、
「コロナ以前」には戻らない
方向転換のときにすべきなの
ではないでしょうか。

司教メッセージ・じゃけえのう・教区の動き
典礼の窓⑦・書籍紹介
J-CaRM
地区・海峡からの風・一粒会
青少年・ひと粒

一〜三面
四面
五面
六、七面
八面

じゃけえのう

「じゃけえのう」とは広島弁で
「だからね!」という意味。

このところ、教会の中で「あ
の行事が中止」「この行事は規
模を縮小」という話をよく聞き
ます。コロナ禍の中でこれまで
続けてきた行事ができなくなる
のは残念なことですが、わたし
はこれを一つのチャンスと考え
ています。確かに、これまで続
けてきたことはできなくなりま
した。ですが、いまこの状況の
中で出来ることは他にいくらで
もありません。去年までしてい
たことが出来なくなつたなら、今
年できることを見つけ、それに
全力を注ぎたいだけの話で
す。そうすれば、過去の行事を
越えるほどの宣教、今しかでき
ない宣教の実りを上げられるに
違いありません。今こそ新しい
福音宣教、現代の人々が求めて
いる福音宣教を始める絶好の
チャンスなのです。

「キリスト・イエスの囚人」
を名乗ったパウロは、実際、生
涯のうちに何度も投獄の憂き目
にあいました。ですが、「閉じ
込められてあれも、これもでき
なくなった。もう駄目だ」と諦
めることは決してありませんで
した。救いを求めて苦しんでい
る兄弟姉妹のために次々と手紙
を書き、獄中から世界に向かっ
て福音を発信したのです。現代
のわたしたちには、手紙だけ
なく、電話、ファックス、イン
ターネットなど、閉じ込められ
ていても福音を伝えるための手
段がたくさんあります。諦める
理由など何処にもないのです。

何より大切なのは宣教の情熱
です。コロナ禍の中にあつて、
これまで以上にたくさんの人々
が苦しみ、助けを求めています。
わたしたちは、その人たちに
助けの手を差し伸べ、神の愛
を伝えずにはいられません。

「福音を告げ知らせないなら、
わたしは不幸なのです」と言つ
たパウロの情熱を引き継ぎ、い
ま出来ること、いまずべきこと
を見つけられますように。

(宇部教会 片柳弘史神父)

自発的な連帯

新型コロナウイルス危機の中で、互いに支え合い、励まし合う人々の自発的な連帯のエピソードに触れる機会がしばしばありました。テレビのニュース番組を通して、とくにわたしの印象に残っているのは、夕方七時に、医療従事者の勤務交代の時間に合わせ、町中の人々が、家の窓を開けたりベランダに出たりして、拍手をもって医療従事者へ感謝と労いのエールを送る光景です。また、テイクアウト以外の営業自粛を要請された飲食業の方々が弁当を作って、医療従事者に届けるボランティアも紹介されています。このような自発的な連帯の事例は、枚挙に暇がありません。わたしは、この自発的な連帯の中に、新型コロナウイルスを乗り越えるだけでなく、「わたしたち人間の営み」がより福音的なものに変容されていく期待と可能性を感じました。

新しい生活様式の模索

新型コロナウイルスを絶滅させることが困難な現状の中で、ウイルスの存在を意識し、それに感染しない「新しい生活様式」への移行が叫ばれています。例えば、オンライン

インによる対応（診察、会議、授業など）が、以前にも増して種々の分野に導入されつつあります。また、テレワークによる在宅勤務というあり方も、今後、広がっていくのかもしれない。このような「新しい生活様式」に関連する事例も、わたしたちに新たな気づきと可能性を提示してくれています。わたしたちは、この新しい生活様式の模索を、感染防止という視野からだけではなく、「より福音的な社会生活」への変容を目指していく転機にすることができるとは思いません。そのために、まず「より福音的な社会生活への変容」に奉仕する、わたしたちの教会の現状を立ち止まって見つめ直す必要があります。

教区代表者会議の延期

広島教区では、今年十一月二十三日に、十年ぶりとなる教区代表者会議を開催する予定で、昨年十月「福音宣教特別月間」からその準備作業を始めていました。まず、小教区・巡回教会・修道院等の教会共同体へアンケートが実施され、その結果を分析しながら、教区代表

者会議で取り扱う分科会のテーマを考える準備がなされてきました。（この教区報が発行される前後に）教区代表者会議準備事務局から、アンケートの中間報告と分科会のテーマ案が、皆様のもとに届けられることでしょうか。「喜びをもって福音をのべ伝える教会へ」を総合テーマとして行われる教区代表者会議が、実に豊かなものとなるように、六月十三日に開催された「教区宣教司牧評議会」において、その開催を来年に延期することを申し合わせました。それは、アンケートの中間報告と分科会のテーマ案のもとに、わたしたち一人ひとりが、立ち止まって教区の現状と課題にしっかりと向き合い、じっくりと協議して、実現可能で具体的な提言をある程度まとめる時間を確保するためです。広島教区で、過去に二回行われた教区代表者会議と、来年開催される教区代

表者会議の相違は、その開催までに、実現可能で具体的な提言を、ある程度まとめるべく作業をおこなうということです。教区代表者会議は、広島教区民が教会の生活・活動の新しい様子を模索するために連帯していく絶好の機会となるものです。第三回目となる教区代表者会議のために、今後とも、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

被爆75年を迎えて

昨年、広島市の平和記念公園を訪問された教皇フランシスコは、「平和の道を切り開く力」として「思い出し、ともに歩み、守る」（『すべてのいのちを守るため』三七頁）という三つのことを提示されました。すなわち、過去の悲惨な出来事を「思い出し」、現代社会の人々の願いと望みを共有して「ともに歩み」、神が与えてくださった「共通の家」である世界を「守る」ということです。そのために、教皇フランシスコが被爆地でのメッセージを通して、とくに強調されたことは「核なき世界」の実現でした。

長崎の爆心地公園を訪問された教皇フランシスコは、「核なき世界」の実現のため

に、とくに政治をつかさどる指導者に向けて、いくつかの具体的な提言をしています。①核兵器は安全保障に対する脅威から人間を守ってくれるものではなく、むしろ、核兵器の使用によって破壊的な影響がもたらされること、②核の理論は、恐れ、不信、敵意を増幅させるものにはすぎないこと、③持続可能な開発のための二〇三〇アジェンダを達成すること、④防衛費の一部から世界基金を創設し、貧しい人々の援助に充てること、などです（『すべてのいのちを守るため』二〇～二二頁）。

「核なき世界基金」の創設

教皇フランシスコは、長崎でのメッセージの中で、教皇聖パウロ六世が「防衛費の一部から世界基金を創設し、貧しい人々の援助に充てる」よう促していたことを思い起させ、それを繰り返しています。この歴代教皇の呼びかけに応じて、民間の立場から、「核兵器禁止条約」の早期の批准・発効、また世界の核被害者と環境回復を支援するために、広島教区は、長崎の高見三明大司教様のご協力をいただき、「核なき世界基金を支援する会」（広島本部・長



教区代表者会議ポスター

教区の動き

平和の使徒推進本部

二〇二〇年度(第一回)

広島司教区宣教司牧評議会開催

二〇二〇年度第一回広島司教区宣教司牧評議会(以下、教区宣司評)が、広島ラサール会館二階(聖母幼稚園ホール)を主会場として開催された。新型コロナウイルス感染症予防対策で、新しい会議のあり方としてインターネット回線を利用したりリモート会議形式で開催され、白浜司教、司祭、修道者、信徒の全三十人が出席した。出席者のうち、五箇所の遠隔地から十人がリモートで出席した。また、主会場では、隣席との距離を確保するためホール全体を利用した。

このように、新型コロナウイルスの来広によって鼓舞されたわたしたちは、新型コロナ危機という大きな困難に直面して、「すべてのいのちを守るため」に連帯することの重要性和、その素晴らしさを学びつつあります。より福音的な社会のあり方を実現していくために、被爆七十五年という節目のときを、新たな起点として、ともに歩み出しましょう。そのために、来年開催される教区代表者会議が実り豊かなものとなるよう、皆様のご理解とご協力を、今後ともよろしくお願いたします。



おわりに

核なき世界基金のホームページ <https://nuclear-free.net/>

が分りづらいことなどの課題があり、疲労感が否めないものである。

教区宣司評の冒頭で、白浜司教は、「この度の新型コロナウイルス禍の影響を受けて、教会も新しい福音宣教のため、むしろ新しい活動様式へと移行する恵みの時を迎えているのかもしれない。宣教司牧活動の上に、さらなる神様の導きを

平和の使徒となろう



平和の使徒推進本部

願いながらこの会議を進めて行きましょう。」と挨拶し、祈りをもって会議を始めた。

教区宣司評は、まず次のことについての報告から始まった。

「社会教説に関する活動(中井神父)」「青少年育成

委員会」「召命促進委員会」「カテキズム作成委員会」「津和野の証し人・列聖調査委員会」「カテキスタ養成委員会」「百年誌編纂委員会」「平和の使徒推進本部社会司牧デスク」からの報告に続き、各地区、協働体、各地区修道女連盟からの報告と続いた。

続いて議題は、二〇二〇年度からスタートした「社会へのチャレンジ」について次の三つのことが白浜司教から示された。

①これから三年間、教皇フランシスコ回勅『ラウダート・シ』(ともに暮らす家を大切に)を指針として、

・二〇二〇年度 『いのち』 神との関係

・二〇二一年度 『環境』 自然との関係

・二〇二二年度 『平和』 隣人との関係を一年ごとのサブ・テーマとして教区の歩みを方向付けていく。

②休眠状態にある「カリタス広島」のあり方を検討する。

③「核なき世界基金」を創

設し、募金活動(支援の輪)を拡げていく。

続く議題は、今年の平和行事、被爆七十五年に向けて、状況報告を中心に話し合われた。

次の議題は、「二〇二〇広島教区代表者会議(以下、代表者会議)」について話し合われた。

本議題においては、次の資料が準備された。「アンケート分析の中間報告書」「代表者会議までの流れ(見直し版)」「代表者会議当日の分科会テーマ作成に際しての考え方」について概要説明があり、その後、次の提案が代表者会議準備会事務局から示された。

①代表者会議を二〇二一年十一月二十三日(祝火)に延期する。

②名称は今までと同じ「二〇二〇教区代表者会議」とする。

③アンケート内の質問の教区創立百周年関連についての準備は、代表者会議と切り離し、平和の使徒推進本部に委託する。

この三つの提案は、出席



Skype会議（テレビ会議）の様子

評議員の賛成多数により決定した。

なお教区創立百周年関連については、早ければ次回の教区宣司評（十二月開催予定）に提案できることを検討していく予定とのこと。

また今回準備された代表者会議関連の資料「アンケート分析の中間報告」他は、各地区を通じて教区内に提示される予定である。必要に応じて各地区または平和の使徒推進本部に問合せて頂きたい。

教区宣司評の終盤は、「教皇フランシスコ訪日 来広記念行事に関する提案」「旧約聖書の書き写しリリース」（今年九月から開始）

新型コロナ感染防止対策の文書の中で、わたしたちは「公開ミサ」・「非公開ミサ」という言葉を耳にするようになりました。ミサは、一人でも多くの人が参加できるよう、公開の祈りの場であるべきです。そのため、「非公開ミサ」という言葉に違和感を持たれた方も少なくないと思います。ところで、司祭一人と少数の奉仕者のみに限定され、他の



シリーズ「典礼の窓」では、白浜司教による典礼の解説を掲載します。

について（案）「新型コロナウイルス感染症予防のための今後の対応について」他、提案、報告、諸連絡があった。

以上のことが話し合われ、祈りと祝福のうちに三時間半の教区宣司評を閉会した。

本記事に関するご質問などは平和の使徒推進本部まで。

洗礼を受けた信者は、聖霊によって一つに結ばれているので、動画配信という手段によるサポートによって、空間的（場所的）な限界を超えることが可能ではないかと思ってしまうます。動画から聞こえてくる司祭の言葉も、聖書の言葉も、歌声も、聖堂という現場からのものと殆ど同じです。そうであれば、「聖体を拝領することができない

信者が自由に参加できない「非公開ミサ」の目的は、信者の参加を拒否するためではありませんでした。それは、「非公開ミサ」が、別の場所にいる信者に動画でライブ配信されて、公開されたという配慮からも分かります。

このような動画によるミサへの参加は、現代の進歩した技術の恩恵によるもので、以前は、到底考えられない事象でした。一見、ライブで配信される動画を通して、それぞれの場所でも、ミサに参加する場合、直接、聖体を拝領することができないという以外、大きな相違がないように思えます。

聖書を読んでいると、「いくら神様でもこれはお



書籍紹介

『あなたはわたしの愛する子』心にひびく聖書の言葉』

著者：片柳弘史神父 出版社：教文館

という恵み以外、大きな相違がない」のでしょうか。イエスの約束のことはを思い起しましょう。「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである」（マタイ18・20）。キリストを信じる仲間が「集う」ことは、聖霊によって信仰の恵みにあずかっている兄弟姉妹が、ともに「キリストを共有する」ことの基礎となることです。同じ時間と同じ空間にいるということは、キリストを信じる仲間を共有し、またともに集う仲間と共に「キリストを共有する」という恵みを

かしいだろう」と思うような箇所がときどきある。だが実は、そんな箇所こそ、人間の理解をはるかに越えた神の愛が隠されている。聖書に隠された神の愛を、片柳神父が説き明かす。

に発展していく土台となるものです。詩編133・1に「見よ、兄弟が共に座っている。なんといい恵み、なんといい喜び」という一節がある通り、実際に「集う」ことの神秘がそこにあることを心に留めましょう。

聖書写経キャンペーン 完了者紹介

写経（旧約・続編）を完了された方

- No.002 篠田 清子 様 祇園教会
- No.003 田淵 恵子 様 廿日市教会
- No.004 沢内 恵子 様 廿日市教会

写経（新約）を完了された方

- No.011 高橋 陽子 様 祇園教会
- No.012 白砂 暢栄 様 観音町教会

霊的な過ごし方への
取り組み

緊急事態宣言を受け、長期にわたり教会に行くことが出来ない中、共同体が霊的に過ごせるようにと取り組んだ教会を紹介いたします。

松江・出雲教会では一日をミサの構成に従って、イエス様と霊的に一致して過ごし、日々をささげました。

朝起きたら…(開祭) 十字架を切る。「主よ、わたしとともにいてください。アーメン」。

午前中…(ことばの典礼) 信者は各自で毎日のミサの朗読箇所を朗読、沈黙のうちに、短い黙想。(聖書朗読でも可)

十二時…答唱詩編の代わりに
にお告げの祈りを唱える。主日には使徒信条を加えて祈る。

午後…(感謝の典礼) イエス様と一緒に自分をささげる気持ちで、心を込めて日々の仕事を

を行います。何か小さな犠牲をささげましょう。

十八時…(交わりの儀) 各自それぞれの場所で、主の祈りをささげましょう。

十九時半…(聖体拝領) 司祭は一人でも、皆のための意向でミサをささげます。(午前中に神の言葉を味わえなかった人は、このときに聖書を読んで味わいましょう。) 霊的に聖体拝領にあずかる為「聖アルフォンソ・リゴリの祈り」をささげましょう。

二十一時…(閉祭 祝福) 司祭は皆さんを祝福します。信者は自分の場所での霊的にその祝福を祈り求めて、十字架を切る。

病床や他の理由でミサに与れない方にもご紹介ください。

広島司教区ホームページ
情報サイト掲載。励まし愛
企画第一号。

土曜学校

アルナルド ネグリ神父

倉田 英里



アルナルド神父

毎週土曜日の午後から福山市と尾道市の間の松永の高西コミュニティ・センターに集まり、サッカーやドッチ、おにごっこなどみんなで体を動かして遊び、後で聖書の勉強(初聖体、堅信のため、それが終わった子どもたちは更に深めていくため)をします。その後、尾道教会でミサに与るということをしています。その後おやつを一緒に。一か月に一回、季節に合わせてミサの前に違う場所に遊びに行きます(動物園、山の公園、アイススケート、雪山、夏休みの間毎週土曜日にプール)



ミサに与る子どもたち

ラジル、ペルー、フィリピン、ベトナムが主です。その母国でカトリック教徒として生活していた人たちの子どもたちにカテキズムの公教要理を教えています。南米は伝統的にカトリック

ですが、数十年前からブラジルでプロテスタントのペリテコステ派などいろいろな宗派が活発になり、ブラジル本国でも日本に住むブラジル人もカトリックから違うそれらの宗派の教会に行ってしまう状況がありました。そして、日本にいるカトリック教会に残っているブラジル人たちも伝統的信仰(儀式や行事先行のよな形だけの)つまり、個人で生きていない(毎日の生活に生きていない)信仰しかもっていません。外国に来て生活していくのに精いっぱいなのか、日本になじんで教会に行ったり、ミサに与ったりするために努

力する人は少ない現状です。そのような現実の中、なんとか子どもたちの信仰教育のために日曜のミサや日曜学校に参加することを勧めてみましたが、日曜日に朝早く起きるのは難しい、毎日仕事に、学校に忙しいので休みの日は家族でゆっくり過ごしたり遊んだり、友人とパーティー、海水浴、観光がしたいなど、楽しい面白いことをしたい。教会に行くより面白いことはたくさんあります。ところが、二〇〇二年度から、学校で週休二日制がはじまり(ゆとり教育)土曜日が休みになりました。そのような中、親が働いていて何人かの子どもたちは一人で家に居るといふ事情を聞き、私はこの機会を利用してみたらよいのではと考えました。そこでこの土曜学校がスタートしました。それから幸いにも二十年近くこの活動は続いています。すでに第二世代になっています、最初のときの子どもたち(もう大人になっている)の子どもが参加するようになりました。

地区便り

岡山鳥取地区

＊新型コロナウイルス感染症への岡山教会の取り組み

世界中で蔓延しているコロナ禍、今年の二月から国では不要不急の外出は控え、少しでも感染リスク、感染する可能性が無いように、強い要求がありました。

岡山県では感染者が無い状態でしたが、三月に感染者が出たとのニュースがあり、信者の方々から心配する声がたくさん寄せられました。

ただ、ごミサはそう簡単には中止できるものではない。



岡山教会 ミサの様子

く、何とか継続したいと考えましたが。この時点で教会においても多くの司教区でごミサが中止になっておりました。

また、他県の信者の方から岡山教会でのミサ時間確認の電話等もあり、感染リスクの高い高齢者の方が、ごミサに来られることを考えると何としても信者の皆さんのいのち、健康を守るため、四旬節という大変大切な時期でしたが三月九日～二十日までミサを非公開としました。

主任司祭には大変な決断をしていただき感謝しております。

一日も早くこの危機を乗り越えることが出来ますように。

広島地区

＊平和行事

今年の平和行事は、新型コロナウイルスの影響で、参加者を広島教区内に限定し、規模を縮小して行われます。

日程：八月五日（水）～六日（木）

場所：世界平和記念聖堂、

海峡からの風 57

下関労働教育センターだより

連帯を生きていく広島教区

まず、「一杯の愛のお米プロジェクト」に快く寛大にご協力してくださった皆さまに下関から感謝申し上げます。コロナ禍で生活困窮になった在日ベトナム人を食料支援するこのプロジェクトの西日本を担当することになり、協力を呼びかけたところ、たくさんの方が応じて寄付をしてくださり、六月末までにおよそ五百名の方に食料を届けることができました。本当にありがとうございました。

コロナは、日本社会の歪み、不平等が炙り出されることにもなりました。人間の豊かさという発展を考慮せずに、経済発展のみを追求してきた社会のあり方が問われ直しているのでしょう。一方で、困窮している人たちを助けたいという人々の良心の連帯に出会う

日々でもありました。広島教区でもそれぞれの小教区で様々な活動がなされていると聞いています。連帯の力を感じます。

ミサを公にはできなく、様々な活動がストップしたため、毎朝、自然公園のある山に登り、山頂から海峡を眺め、皆さんのために祈りました。朝日に照らされて輝くような新緑の中、小鳥のさえずりを聴きながら、心は自ずと大自然という神の創造を賛美していました。人間の営みにブレキがかかり、自然が喜んでいっているという皮肉に心が痛みます。イーリス・アショアのこととも思いました。

と、先日、山口の信者さんから、「イーリス・アショア計画撤回の速報ニュース」というメッセージが入りました。何と嬉しいことでしょう。広島教区が共同主催して萩で行った反対集会からちょうど一年、三六五日がたったその日、六月十五日でした。安

全性を確保できないことや

様々な要因があるのでしよう。コロナが押しつけてくれたのかもしれない。

「複雑な思いである」という感想もいただきました。沖繩は依然、辺野古基地の建設が続いているからです。私の中で、イーリス・アショアの問題は、沖繩の痛みと切り離せないものとして繋がっています。

「平和のために、どうかお願いします」と白浜司教さまの手を固く握って言われたフランシスコ教皇。その呼びかけの中に、広島から世界への連帯、沖繩への、福島への、長崎への、痛みのある場所への連帯の呼びかけが内包されています。この連帯を深めていく道の中で私たちがイエスと深く出会っていくことができますように。

労働教育センター所長 中井 淳 神父



広島カトリック会館

内容：基調講演（ビデオ

配信）メッセージYouTube

配信）講演者：山内

清海神父（長崎教

区）、ホアン・アイ

ダル神父（イエズス

会）・分科会（朴南

珠さん被爆証言、ヒ

ロシマの朝鮮半島と

繋がる記憶）・平和

祈願ミサ・平和記念

公園供養塔前での祈

り・原爆すべての戦

争犠牲者のためのミ

サ・キリスト者平和

の祈り（深堀升治神

父のお話）

これらに加えて、過去の被爆証言のYouTube配信を計画しています。

尚、幼稚園への宿泊はできません。行事に参加される方はマスクの着用をお願いいたします。当日、参加者の方にはお名前と電話番号の記入をお願いいたします。また、参加人数が多い場合は人数制限を行う場合があります。ご協力をお願いいたします。

伯雲協働体

*待ちに待ったミサ

これからのお話はすべての教会にも共通だとは思いますが、米子教会でも信徒の皆が待ちに待ったミサが、五月三十一日聖霊降臨の祝日に再開されました。（いつもと比べ参加人数は1.5倍くらい）

一週間前に主だった信徒が集まり、再開するにはどうしたらよいか、議論を重ねて次のように決定しました。

手洗い・マスクはもちろん、聖堂も左右の小窓を開放し、聖堂と小聖堂の間仕切りを取り払い、外との間のガラス扉も数か所開放。天井のサーキュレーターも稼働させ、ベンチの着席も一人置きにと、ベンチ横のパイプ椅子もソーシャルディスタンスを取って幅広く並べて。

ミサも歌わず唱えるだけで、寂しいですが閉祭の歌だけ一番のみを。コロナが収まるまでは

この状態で頑張って...

*伯雲協働体の行事予定

・七月二十四日(金) 十時

伯雲協働体勉強会

於：米子教会 講話・

宇部教会主任司祭 片

柳弘史神父

・十一月二十三日(月) 十

時 永井隆博士平和

祈願ミサ 於：三刀屋

アスパル 司式：白浜

満司教 共同司式 講

話：サレジオ会 阿部

仲麻呂神父

どちらも、新型コロナウイルス感染症が出ているため詳しい時間は検討中。

聖書の書き写しリレー 旧約編が始まります！

2020年9月翠町教会よりスタートし、2022年11月まで行われます。今回は多言語によるリレーですので、広くどなたでも参加していただけます。

平和の使徒推進本部

広島教区一粒会

広島教区 予科生

吉田 聖真



今年から東京カトリック神学院に予科生として入学させていただきました吉田聖真です。新型コロナウイルス感染症予防のため、入寮が遅れましたが、無事、予科生として入学することができました。予科の神学院での一日の流れは、朝の祈りとミサから始まり、朝食をとり、授業を受けます。今は聖書の通読とバチカン公文書の講読、カトリック要理研究や英会話等の授業をしております。昼の祈り、昼食後に午後からは作業しております。大阪教区立の学校が閉鎖され、その図書館の本が神学院に贈られ、その本の整理をしております。夜は、夜の祈りと夕食後に寝る前の祈りで一

日が終わります。

毎週水曜日の午後は、ベタニアホーム（介護老人福祉施設）でお手伝いをする予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のためにいけない状況です。毎週日曜日は、司牧実習があり関町の教会にお世話になることとなります。僕は理系の大学を卒業しましたが、神学院で学ぶ内容は文系寄りの内容で、それが新しい刺激となり、日々充実した生活を送っています。

皆さまのご支援を賜り神学院に通わせていただき大変感謝しております。未だ感染の脅威は去つておらずミサも制限されている状況ですが、皆さまにも神様のお恵みが届きますようにお祈りしております。共に乗りこえていきましょう。

